

令和5年度 学校評価報告書

学校名	三田市立本庄小 学校
-----	------------

1 学校教育目標

本気で学ぶ 丈夫で 心豊かな 本庄っ子の育成

2 今年度の学校重点目標

- ・主体的に学習に取り組む態度を育み、確かな学力の定着を図る。
- ・人間としてよりよく生きるための基本的な心構えや行動の仕方について学ばせ、道徳教育の充実を図る。
- ・人権感覚の涵養を基盤に、人権課題を解決しようとする意欲を育む。
- ・児童の想像力、表現力を豊かにする読書活動を推進する。
- ・望ましい集団生活を通し、主体性を高める特別活動の推進を図る。
- ・児童の実態把握と共通理解に努め、特別支援教育を推進する。
- ・児童理解の深化を図り、生徒指導の充実に努める。
- ・体験活動を重視し、地域と連携した環境教育・ふるさと学習・伝統や文化に関する教育を推進する。
- ・学校・家庭・地域が一体となり、防災・安全教育を推進する。
- ・国際理解教育の推進を図る。
- ・勤務時間の適正化に取り組み、ワーク・ライフ・バランスを推進する。

3 総合的な自己評価

学習指導については、「主体的・対話的で深い学び」を念頭に置き、児童が主体的に対話的に学べる授業を構築してきた。また、ICTを効果的に活用することで、児童がお互いに具体的なイメージを持ちながら意見交流する場面が多くみられた。
学校規模に合わせた取り組みである「縦割り班活動の充実」「農業体験活動の充実」「公共交通機関の利用」を推進することができた。保護者や地域と取り組みの価値を共有し、丈夫で心豊かな子を育てていきたい。

4 総合的な学校関係者評価

学校規模に合わせた取り組みである「縦割り班活動の充実」「農業体験活動の充実」「公共交通機関の利用」を大切に来年度も取り組んでいってほしい。特に、農業体験活動は、本庄小の財産であり、今後も継続してほしい。小規模には小規模の良さがある。児童ひとりひとりが集団に埋もれることなく安心して過ごせているのがよいと思う。どの子も6年生になると最上級生としての自覚がでてくるところもよい。ただ、厳しいことに立ち向かう強さも必要である。不登校傾向を示す児童が進学とともに増加する傾向にある。困ったことがあっても踏ん張れるたくましい子に育ってほしい。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
保護者・地域との連携	保護者や地域の方の声を積極的に聞き、教育活動の様子や指導内容などを分かりやすく伝える。	学校ホームページに「今月のほんじょう」として写真で児童の活動の様子を定期的に発信した。	学習で使用しているアプリの紹介を保護者に発信する。	・子どもたちが iPad をとてもよく活用していることが分かる。だからこ子どもが学習で使用するアプリの操作方法を保護者にも伝える必要があるのではないかと。 ・中学校に向けて、学校だけでなく家で自主的に学習に向かう力が必要だと感じる。
	『本庄っ子のやくそく』や『本庄っ子学びの応援団』をもとに家庭と連携したより良い生活習慣・学習習慣の確立を図る。	「自学のすすめかた」を配布し、家庭での自主学習の定着に取り組んでいる。毎月、児童が決めたお手伝いを学級通信で保護者に知らせている。	来年度も、「自学のすすめかた」を活用し、家庭での自主学習への主体的な姿勢の定着に取り組んでいきたい。	
教育課程 学習指導	すべての教育活動で、主体的・対話的に学習に取り組む態度を育成する。	「めあてとふりかえり」「学習の流れの提示」「ペア・グループでの話し合い」などの学習の形を継続しながら、工夫した授業づくりに取り組むことができた。	来年度も、「対話」を大切にし、地域の方やゲストティーチャーなど対話の相手を広げるとともに、継続して取り組める場設定をつくる。	・本庄の子どもたちは農業体験活動を通して、様々な経験をさせてもらっている。 ・地域学習を通して地域の良さや季節を感じてほしい。 ・公共交通機関を使うことは良い経験になっていると思う。そこで公共のルールを守る大切さを実感してほしい。
	米や黒豆、うどん作りなど生活・総合的な学習の時間を中心に、地域に根ざした教育活動を積極的に行う。	地域の協力のもと、児童数に合わせた活動内容と形態を考え、取り組みを進めることができた。	より教科横断的なカリキュラムを作成することで、学びに深みを持たせるとともに、児童がじっくりと課題に向き合うことができる時間の余裕をつくる。	
人権教育 特別支援教育	伝え合おう朝会や全校終会時における「伝え合おうトーク」を通して、子どもたちの自己表現力を高め、自尊感情を育み、認め合い、高め合う態度を醸成する。	伝え合おう朝会では、友だちの発表をしっかりと聞き、感想だけでなく共感したことを言葉で返す姿勢が定着した。	感想は時間制限をせず、発言したい児童が全員発表できるようにする。職員研修を充実させ、職員の人権感覚を更に高めていく。	・子どもは動画配信されたものを無条件に真実だと思ってしまう。情報の真偽を疑う視点を身につけてほしい。 ・SNS の過ちは一回でも人生に大きな影響がある場合がある。子どもを守るためにも情報モラル教室は保護者にも参加してほしい。 ・学級集会で保護者と LGBTQ の学習ができたことはよかった。これからも人権感覚を高める場をつくってほしい。
	心のアンケート年2回や全校道徳タイムを年3回開催し、自尊感情の高揚を図る。	1年生を迎える会を縦割り遠足で行うことができた。心のアンケートをもとに、全校道徳タイム等で子どもの気持ちに寄り添った取り組みを行うことができた。	性の多様性等については、授業で取り組むだけでなく、児童がその話題についていつでも相談しやすい雰囲気をつくる。	
	児童理解のために日常的に情報共有の機会をもち、共通理解を図る。	全職員で全児童を理解する体制を整え児童に寄り添う指導につなげることができた。	定例委員会や職員会議での「児童の様子との交流」等を継続し、児童理解を図るとともに指導につなげる。	
研修・研究	「主体的・協働的に学ぶ、児童の育成～対話によって深める授業作り～」を推進し、研究テーマに則した授業改善に取り組む。	地域の方やゲストティーチャーを交えることで「対話」が活性化されるとともに児童に多角的なものの見方がつけることができた。資料活用等でICTを効果的に活用し、児童が具体的にイメージを共有しながら意見交流する場面が多くみられた。	・児童がより主体的になるように、学習内容を児童の日常生活や未来にもっとつなげることで、一人一人が授業時間以外でも自分で調べたり、学んだことを実践したりする姿が増えていくようにしていきたい。	・大人になっても自分から学ぼうとする姿勢が大事。自分から学ぼうとする習慣をつけてほしい。 ・農業体験活動は本庄小の強みだと思う。これからも続けてほしい。
いじめ防止	いじめ防止基本方針に則り、地域・保護者と連携を図りながら、児童の健全な人間関係構築に向けた教育活動を実践する。	地域・保護者と連携を取りながら、児童の健全な人間関係を構築することができた。いじめ事案が発生した時も、迅速に対応することができた。	今後も児童理解を深め、生徒指導や道徳教育の充実を図り、いじめ防止に取り組む。また、些細なことでも連絡・報告する体制を強化し、迅速な対応に努める。	・オンラインゲームや SNS 中での様子を心配している。これからも子どもに寄り添う指導を続けてほしい。

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
7月	保護者へのアンケート実施(1回目)
12月	保護者へのアンケート実施(2回目)
1月	教職員による学校評価

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
5月 6月	運動会視察 第1回学校運営協議会
10月 11月	音楽会視察 第2回学校運営協議会
2月	第3回学校運営協議会

8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
3月	学校ホームページ 保護者配付文書	学校評価(自己評価及び学校関係者評価)の結果及び今後の改善策を記載 学校評価アンケートの結果を周知	○

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います

※ 行は、適宜加除願います。